

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城県

【学校名】 学校法人明和学園 いずみ高等支援学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

響け！いずみの心 「笑顔まんてん、いずみの輪」

【実施学年、部、講座等】

本科 1～3 学年 （女子 6 名）

【目的・ねらい】

- ・大切な人を温かく迎える気持ちを抱くことができるようにする。
- ・大切な人に喜んでもらえるよう、みんなで協力して一つの作品を作り上げることができる。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 **総合的な学習の時間** ・特別活動
- ・教科以外での取組（ ）

【実践内容等】

（実施内容） ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

笑顔まんてん、いずみの輪 ―花で おもてなし―

1 実施計画

- ① おもてなしって？・・・2 時間（総合的な学習の時間）
 - ・デザイン作り
 - ・花材調べ（秋の草木調べ）
- ② 製作活動・・・2 時間（総合的な学習の時間）
 - ・柳を使ってリース作り（五輪の輪のイメージ）
 - ・どんぐりなどを使ってデコレーション
- ③ 「花で おもてなし」の組立、設置（3 階踊り場）・・・昼休み
- ④ 展示・・・平成 27 年 10 月 31 日(土)学園祭当日

2 主な活動

- ① おもてなしって？
 - ・おもてなしの具体的な内容・・・話し合い活動
 - ・デザイン作り等・・・話し合い活動、本やインターネットを利用した調べ学習
 - ・花材調べ・・・話し合い活動、インターネットを利用した調べ学習
 - 雲龍柳やどうだんつつじを使って
 - どんぐりを使って
 - フォックスフェイスを使って
 - 立体的に、躍動感あふれる作品を

② 製作活動

- ・製作・・・大きな壺と小さな壺を花器にして
花器にオアシスを入れ、花材を生ける。
湧き出でるいずみをどんぐりで表現

③「花で おもてなし」の組立、設置（3階踊り場）

休み時間を利用して、

- ・組立・・・紅葉した校庭のけやきの葉を散らし、
秋の季節感を加えて



できあがったオブジェ

3 生徒の感想

- ・先輩と一緒に活動できて良かった。
- ・みんなで作るとおもしろい。もっとやりたい。
- ・雲龍柳でリースを作るのが難しかった。
- ・来校者に喜んでもらえたら嬉しいという気持ちを抱きながら取り組んだ。
- ・学園祭当日のお客様の反応が楽しんだ。
- ・季節を感じるオブジェがすてきだった。

(実践上の工夫点、留意点等)

○雰囲気作りや場の設定、課題の提示の仕方

- ・本実践の学習の形態は、本科1学年から3学年にわたる複数学年による学習集団である。一つの目標に向かって生徒一人一人が協力し合うことができるよう話し合い活動から製作活動まで場の設定や課題の提示の仕方を工夫した。

例えば、友達同士をペアにお互いに話しやすい雰囲気作り、話し合うポイントや調べる観点の提示、お互いに関連づけた製作活動

○目標の確認と意欲付け

- ・来校した人に喜んでもらえるよう、温かく迎えることができるよう、常に相手の目線で製作活動に取り組むことができるようその都度目標を確認する。
- ・生徒のアイデアを最大限尊重する。

○時間の工夫

- ・通常の授業時間以外に休み時間等を利用することで、タイムテーブルを変更することなく無理なく実践に取り組むことができた。生徒の負担も思ったより少なかった。

(成果)

○大切な人を迎える気持ちの高まり

- ・家族や地域の方など大切な人を迎えようとする気持ちが日に日に高まってきた。

○おもてなしの心

- ・おもてなしとはどういうことなのか、一人一人の生徒が意識できるようになってきた。

○成就感や満足感

- ・自分で納得したオブジェを作ることができ、生徒は成就感や達成感を味わうことができた。また、来校した方からもお褒めの言葉をいただき満足感を得ることができた。このことが今後の活動の意欲付けにつながると思われる。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題点がございましたら、自由に記述してください。

- ・特になし

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城県

【学校名】 学校法人明和学園 いずみ高等支援学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

響け！いずみの心 「いずみ，料理でおもてなし」

【実施学年、部、講座等】

- ジャマイカ料理・・・専攻科2学年（女子 14名）
- 日本料理・・・・・・・・専攻科1学年（女子 15名）
- 五輪カップ寿司・・・本科1学年（女子 26名）
- 人参・魚料理・・・・・・・・本科2学年（女子 22名）

【目的・ねらい】

- ・おもてなしの心を持つことができるようにする。
- ・感謝の気持ちを込め、みんなで協力して料理を作ることができる。
- ・日本と外国の食文化の違いに気付くことができるようにする。
- ・外国の文化に興味や関心を抱くことができるようにする。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 (総合的な学習の時間) ・特別活動
- (教科以外での取組) (家庭 (調理), 社会生活, 生活, 美術)

【実践内容等】

(実施内容) ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

「料理でおもてなし」

1 実施計画

- ① オリンピック・パラリンピックについて・・・1時間（総合的な学習の時間）
- ② おもてなしって？・・・1時間（社会生活，生活）
- ③ 日本の文化との違い，料理調べ・・・1時間（総合的な学習の時間）
 - ジャマイカ料理，日本料理
 - 五輪カップ寿司
 - 人参・魚料理
- ④ メニュー表，ランチマット，国旗製作・・・1時間（美術）
- ⑤ 調理実習，おもてなし・・・4時間（家庭（調理実習））

2 主な活動

(1) ジャマイカ料理，日本料理

- ① オリンピック・パラリンピックについて・・・本やインターネットを利用した調べ学習
 - ・過去のオリンピックを振り返る。(ロンドン，北京，アテネ)
 - ・これまでの活躍したオリンピック選手を調べる。(ボルト選手→ジャマイカ)
- ② おもてなしって？・・・話し合い活動
 - ・おもてなしの具体的な内容を考える。

- ③ ジャマイカ・日本の文化と料理調べ・・・本やインターネットを利用した調べ学習
- ・ジャマイカの場所を確認する。
 - ・ジャマイカと日本の食文化の違いを調べる。
 - ・どんな料理でおもてなしすればよいか考える。

- ④ メニュー表や国旗などの飾り作り

- ・料理のメニューと食材を調べる。
- ・招待状やメニュー表などを作る。

- ⑤ 調理実習

- ・ジャマイカ料理と日本料理を作る。
- ・みんなで試食をする。



日本料理



ジャマイカ料理

(2) 五輪カップ寿司

- ① オリンピックについて・・・話し合い活動，本やインターネットを利用した調べ学習
- ・オリンピックに関する料理，おもてなしの料理を考える。
 - ・五輪マークの話から五色で作れるものを調べる。

赤の食材，緑の食材，黒の食材，黄の食材，青の食材

- ② 名称とオリンピックを意識付けるカップなどの装飾

- ・名称は「五輪カップ寿司」，カップには五輪のマーク，国旗の装飾

- ③ 調理実習

- ・赤；かにたま，緑；きゅうり・しその葉，黒；のり，黄；たまご
- ・青；卵白と紫芋パウダーで青になることが分かり，それで炒りたまご
- ・青を全員で調理する。
- ・赤，緑，黄，カップ・旗の4グループに分かれて準備し盛り付ける。



五輪カップ寿司

(3) 人参・魚でおもてなし

- ① 人参の収穫

- ・農園で栽培した人参を収穫する。

- ② 人参料理の話し合い

- ・話し合いでおもてなし料理の一品に決定する。

- ③ 調理実習

- ・鮭のムニエル，サラダ，人参ポタージュを調理する。

- ④ ランチマットとメニューカードの作成

- ・美術の時間に折り紙で人参を作り，色画用紙に貼る。
- ・メッセージ付きのメニューカードを作成する。



人参と鮭のおもてなし料理

(実践上の工夫点、留意点等)

○生徒の主体的な取組

- ・調理実習の前に話し合い活動を取り入れ，生徒一人一人の希望を大切にします。

○目的の確認と意欲付け

- ・単なる調理実習ではなく，おもてなしの心で目的意識をしっかりと持たせるために，おもてなし，オリンピック・パラリンピックについて考えさせる時間を意図的に設定する。

(成果)

○成就感や満足感

- ・相手に喜んでもらったこと，うれしそうな表情が見られたことから，生徒は成就感や満足感を味わうことができた。ほとんどの生徒が楽しんで実践に取り組んでいた。

○おもてなしの心の醸成

- ・相手の立場に立ったものの見方や考え方ができるようになってきた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

・おもてなしの対象の拡大

平成27年度のおもてなしの対象がほとんど校内に限られていた。生徒にとって知っている人をもてなすことで安心感があった。

平成28年度は，おもてなしの心の醸成を図る上で外部の方や外国の方などを招待したい。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城県

【学校名】 学校法人明和学園 いずみ高等支援学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

響け！いずみの心 「笑顔まんてん！心を込めた贈り物」

【実施学年、部、講座等】

本科3学年（女子 22名）

【目的・ねらい】

- ・相手への感謝の気持ちを抱くことができるようにする。
- ・心一つに、みんなで力を合わせ贈り物を作ることができる。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
・教科以外での取組（ 家庭（家庭一般、手芸・ミシン）、社会生活 ）

【実践内容等】

（実施内容） ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

「笑顔まんてん、心を込めた贈り物」

1 実施計画

- ① どんなおもてなし？・・・1時間（社会生活）
- ② シンボルマークを決めよう・・・1時間（社会生活）
- ③ 贈り物を作ろう・・・10時間（家庭（手芸・ミシン））
 - 刺しゅう
 - 縫製
 - 仕上げ
- ④ メッセージカードを作ろう・・・1時間（社会生活）

2 主な活動

- ① どんなおもてなし？・・・話し合い活動
 - ・どんなおもてなしができるのか。
 - ・相手の気持ちになって
 - ・みんなで力を合わせて取り組めるものを
- ② シンボルマークを決めよう・・・話し合い活動
 - ・シンボルマークは一つだけ
 - ・自分の作品が選ばれなくとも愚痴を言わず
 - ・友達の作品の良さに目を向けて
 - ・友達の作品を認めるようにして

- ③ 贈り物を作ろう
- ・五輪の色に合わせ五色の布を使って
刺しゅう
縫製，仕上げ

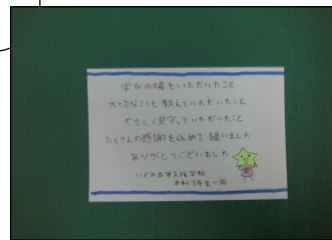
<生徒の声>

- ・みんなで作ることが楽しい。
- ・早く渡したい。
- ・どんな顔をして受け取ってくれるのか楽しみ
- ・喜ぶところが見たい。
- ・やればできると思った。



五色のポケットティッシュ入れ

- ④ メッセージカードを作ろう
- お世話になった皆様に、
- ・感謝の気持ちを込めて
 - ・素直な気持ちを文章に
 - ・一文字一文字丁寧に



感謝の気持ちをメッセージに

(実践上の工夫点、留意点等)

- 普段の指導と関連づけて
 - ・生徒にとって無理なく取り組めるよう内容を検討する。
- 目的意識を明確に
 - ・何のために作るのか、誰のために作るのか、その都度生徒に問い掛け，目的を意識させながら取り組ませる。
- 一人一人の気持ちを大切にしながら
 - ・意欲的に，自主的に活動に取り組めるよう，一人一人の気持ちを大切にする。

(成果)

- 積極的，意欲的
 - ・生徒は，予想以上に積極的に意見を出し合った。自分たちで方向性も決めることができた。
 - ・これまでの学習の成果がよい形で表現でき，取組も意欲的だった。
- 相手の良さの受容
 - ・友達の作品の良さを認め，受容することができた。
- 自信と集中力
 - ・どの活動にも自信を持って取り組み，集中力もあった。普段の指導（家庭（手芸・ミシン）と関連づけ無理なく取り組めるようにしたことが功を奏したと思われる。
- おもてなしの心，感謝の気持ち
 - ・贈り物の意味を理解し，感謝と丁寧に仕上げようとする気持ちで取り組んでいた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- ・オリンピック・パラリンピック教育に対する指導者の育成
「笑顔まんてん！心を込めた贈り物」の指導者は，オリ・パラ教育実践2回目である。おもてなしの心をしっかり押さえ的確に指導していた。余裕も感じられた。
今後，引き続いてオリ・パラ教育を展開するに当たり，指導経験のある教師は見通しを持ち，ポイントを押さえながら実践を積み重ねることができると思われる。おもてなしの心の醸成を図る上から，オリ・パラ教育の指導者の育成が必要と考える。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城県

【学校名】 学校法人明和学園 いずみ高等支援学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

響け！いずみの心 「心に響け！メッセージ」

【実施学年、部、講座等】…任意参加

本科1学年 (女子 26名)
本科2学年 (女子 22名)
本科3学年 (女子 22名)
専攻科1学年 (女子 15名)
専攻科2学年 (女子 14名) 計；99名、教職員32名 総計；131名

【目的・ねらい】

- ・自分もやってみたい、先輩のようになりたいという憧れの気持ちを抱くことができる。
- ・おもてなしの精神で、相手に感謝する気持ちを抱き活動することができるようにする。
- ・様々なスポーツに興味や関心を示し、自分からスポーツに親しむことができるようにする。
- ・努力することの大切さを感じ取ることができるようにする。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科 () ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
・教科以外での取組 () その他 (昼休み時間)

【実践内容等】

(実施内容) ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

「心に響け！メッセージ」(ミニミニ講演会)

1 実施計画

- ① ミニミニ講演会
- ② 花でおもてなし

2 主な活動

- ① ミニミニ講演会
 - ・開会
 - ・講師紹介 (平成17年度専攻科修了生)
過去に2度パラリンピック国際大会(体操)に出場
 - ・講話
パラリンピック国際大会での思い出
大会本番のこと
練習で辛かったこと
在校生へのメッセージ

- ・先輩への質問
体操を始めた時期と動機
練習日
体操選手になるために

② 花でおもてなし（フラワーアレンジメントの製作）

- 休み時間を利用して、
- ・中心の花は、校長先生が生ける。
 - ・99名の生徒が、一人ずつ1本の花をオアシスに生ける。
 - ・100本の花でアレンジメント
 - ・メッセージカードを添える。
 - ・生徒代表が、講師に手渡す。



100本の花のアレンジメント

<生徒の声>

- ・みんなでアレンジメントを作ることは楽しい。自分もほしい。
- ・どんな顔をして受け取ってくれるのか楽しみ。
- ・きっと喜んでもらえると思う。
- ・みんなで力を合わせるとすごいことができる。

（実践上の工夫点、留意点等）

○講演会の時間設定

- ・授業時数をカットすることなく、生徒にとっても教師にとっても無理なく取り組むことができるよう昼休み時間を利用する。参加も生徒に任せる。

○感謝の気持ちの高まり

- ・素直に感謝の気持ちを表現できるよう、一人1本の花を生ける活動に取り組みさせる。
- ・どの生徒も自分でできる活動を取り入れるようにする。

○目的意識の明確化

- ・ミニミニ講演会の講師に対する感謝の気持ちを生徒に抱かせるために、日常の何気ない会話の中に国際大会で活躍した先輩の話を取り上げる。
- ・花でおもてなしの実践に取り組むに当たり、その都度誰のためにフラワーアレンジメントを製作しているのか意識付けるよう言葉掛けを工夫する。

（成果）

○憧れの気持ち

- ・誰でも選手になれるチャンスがあり、日々練習を積み重ね努力した結果、国際大会に出場できたことが生徒の心に届いたようだ。憧れを抱いている生徒も見られた。

○おもてなしの心の醸成

- ・自分の仕事の時間を割いてまで、後輩のためにミニミニ講演会の講師を引き受けたことに対し、感謝の気持ちをフラワーアレンジメントで表現することができた。

○パラリンピックや障害者スポーツへの興味

- ・ミニミニ講演会を機に、体操や卓球、バレーボールなどのスポーツに興味や関心を示し、自分でもやってみようとする生徒が少しずつ増えてきた。

○努力することの大切さ

- ・講話を聞いて、努力すればいい結果が生まれることを感じた生徒がある程度いた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- ・特になし。